

# JAERA

# NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・酒井代表理事よりご挨拶… P1
- 新理事よりご挨拶… P2
- 第8回 業界景況調査の結果について… P3,P4,P5
- 各ブロック会議の開催結果（九州・近畿・東北・中国四国）… P5
- 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業6月出荷状況と今期累計 / 6月新車販売・使用済自動車発生台数… P6
- 鉄スクラップ最新情報 … P7
- 行事予定・お知らせ / 編集後記 … P8

vol. **161**

## 酒井代表理事よりご挨拶

# 01

自動車リサイクル機構代表理事の酒井です。いつも機構の活動に対しご理解と協力をいただきありがとうございます。

去る6月20日開催されました総会におきまして、代表理事に再任され新たな任期を努めさせていただくことになりました。改めましてよろしくお願いたします。コロナ禍がある程度の落ち着きを見せ、今年度に入り対面での会議、活動も再開ということになり本当に良かったと思っています。今期からはこのコロナ禍の2年間で経験したリモートと対面を組み合わせ、効率の良い機構事業の運営に努めて行きたいと思えます。

さて、車業界はコロナ禍による社会の機能不全と半導体不足などの問題が重なり、新車生産が落ち込んだことですべてに悪影響が及んでいます。我々の業界にも使用済み自動車の大幅な減少という状況が続いています。それは新車の供給減少を埋めるため、世界中で中古車の需要が高まっていると考えられ、統計によると中古車輸出の落ち込み幅はそれほど大きくないことから見て取れます。この状況はまだ当分の間続くとされていますし、事業内容の再構築や新しい取り組みなど皆さん非常に苦労と工夫をされているのではないのでしょうか。

このような中、電動化や自動化というような次世代技術の進展や、気候変動対策としてカーボンニュートラルへの取り組みなど国の政策は、待たなしの状況で進んでいます。メーカーや関係業界と協調して取り組まなければならないことは多くなる一方です。資源回収インセンティブ制度はまさにそのような目の前の課題と言えます。今後の新しい取り組みへの議論のためにも、業界全体がより力を合わせて大きな声とすることが求められています。皆様の一層のご協力よろしくお願いたします。

一社) 日本自動車リサイクル機構  
代表理事 酒井 康雄



## 巻頭言

今月号より広報部会は、部会長が永田氏から田村氏へ交代しました。編集後記も田村部会長へとバトンが渡されます。元々仲の良い部会で雰囲気も良かったのですが、新たな体制になり、気持ちも引き締まり編集活動に活気が出ています。

リーダーが変わると空気感も運営も変わります。同じメンバーでありながらもリーダー次第で色々なカラーになることを体感しました。同時に会社に戻れば、我らも社長として「会社の雰囲気」を作りだしている責任があると実感しています。

本格的な夏、スタッフの熱中症や安全面にも注意して猛暑を乗り切りたいです。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0004  
東京都港区新橋3丁目2番2号  
TEL: 03-3519-5181  
FAX: 03-3597-5171  
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
H P: <http://www.elv.or.jp/>

6月20日「2022年度定時社員総会」にて選任されました新理事よりご挨拶させていただきます。

## 理事・北海道ブロック長 菅野 康博



今期より理事(北海道ブロック長)に就任いたしました“菅野 康博”と申します。前任の山口理事が長きに渡り活躍しており、私には大変な重責であります。少しでも貢献出来るよう頑張りたいと思います。

我々が従事する自動車リサイクル業は、自動車リサイクル法の施行により積極的な設備投資がなされ、施行以前に比べて格段に労働環境が向上しました。社会環境も変化しリサイクル業が以前にも増して注目されている状況でもありますので、更に機構の活動を通して我々の業界の取組みが社会的にも認知されればと思います。

## 理事・関東ブロック長 有原 良



皆様、お世話になっております。関東ブロック長及び東京支部長の“有原 良”と申します。この度、小林前関東ブロック長より引継ぎ、関東ブロック長と理事を拝命することとなりました。非力ではございますが精一杯務めさせて頂きたいと思っております。

私はこの日本自動車リサイクル機構の創立時から少しですがお手伝いをしてきました。それは最初の代表理事であった酒井清行さんの「全国の零細な弱い解体業者の声を代弁して、守っていく」との言葉に感動したからです。この業界でずっと生きてきたので、少しでも恩返しが出来たら、と思っています。会員の皆様のお力添えを頂きながら頑張っていきたいと思っております。

## 理事・未来部会長 吉岡 篤



私ども未来部会は、これからの自動車解体業を支えていく若い世代の方々に知識と経験を積んで頂く部会でございます。次世代自動車は基(も)順(と)より、異業種の分野にも目を向け知識として備え、色々な角度から自動車解体業界を見る力を養い、業界の今後の在り方を学んで頂き、会員各社様の後世の経営者並びに経営陣の育成の場となっていければと考えております。そして多くの方々に参加して頂けるよう、邁進してまいりますので、何卒ご協力を頂きますようお願いいたします。

## 理事・広報部会長 田村 幸男



去る6月20日開催の定時社員総会にて理事という重責に選任されました広報部会長及び福島県自動車リサイクル協同組合の“田村 幸男”です。

このような大役を仰せつかるには甚だ微力ではございますが、諸先輩方並び機構会員の皆様方のご協力を仰ぎながら、業務に邁進していきたいと思っております。今後益々厳しくなる自動車リサイクル業界にあって、機構の認知度や存在意義をもう一度見直し日本自動車リサイクル機構が真の業界窓口となるよう努力したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 理事・リサイクル技術部会長 佐々木 健二



今回、日本自動車リサイクル機構の理事(リサイクル技術部会長)に就任しました、岡山県の“佐々木 健二”と申します。

自動車リサイクル士に関しては初期のインストラクターから携わっており、この制度を、機構自身並びに関係団体の協力と共に自動車解体業界の人材教育に無くてはならない存在にします。唯一無二の制度にするためには皆様方の協力が必要です。制度への理解周知、様々な部分での御協力をよろしく願います。

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構  
 第8回 景況調査報告 2022年4～6月期(概要版)

依然厳しい状況 先行きも警戒感強く、慎重な見方

【調査要領】

- ①調査時:2022年6月16日(木)～6月30日(木)
  - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
  - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
  - ④回答企業数:468社のうち131社(28.0%)から回答を得た(うち、有効回答数 130)
  - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 27.1人(前回 24.7人)  
 派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 8.6人(前回 9.3人)
- ※DI 値(DI : Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

## (1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2022年4～6月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期(2021年4～6月)との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△36.9(前回△44.4)、売上高が△15.4(前回8.1)、経常利益が△26.2(前回17.7)、および資金繰りが△10.0(前回18.5)であった。

図1 前年同期(21年4-6月)比業況判断:DI値△36.9

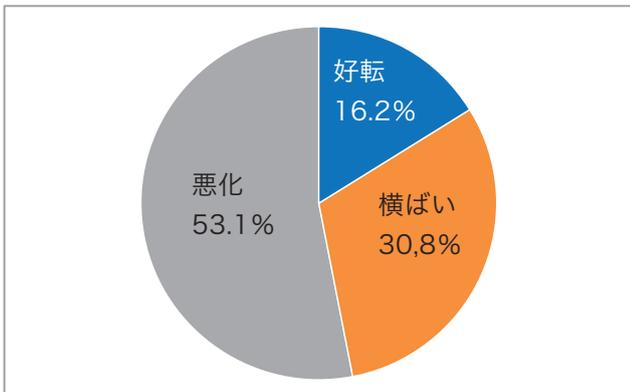


図2 前年同期(21年4-6月)比売上高:DI値△15.4

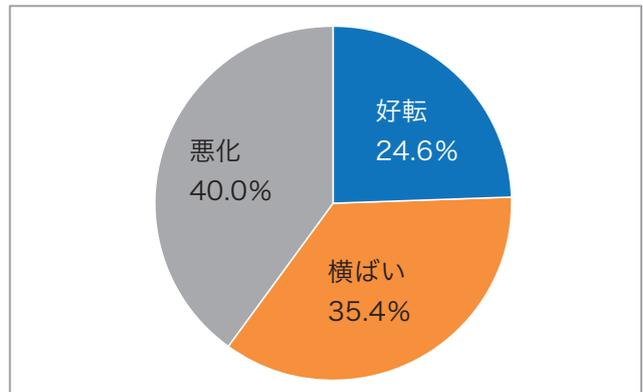


図3 前年同期(21年4-6月)比経常利益:DI値△26.2

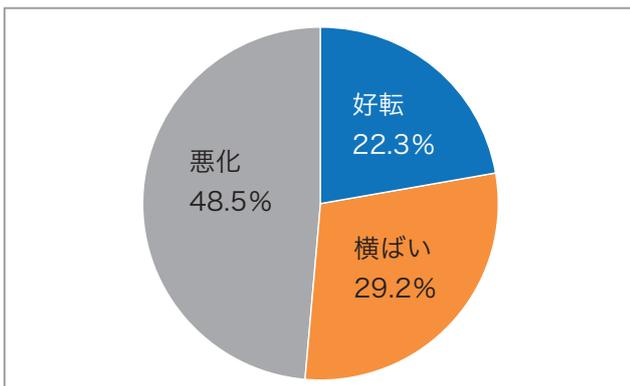
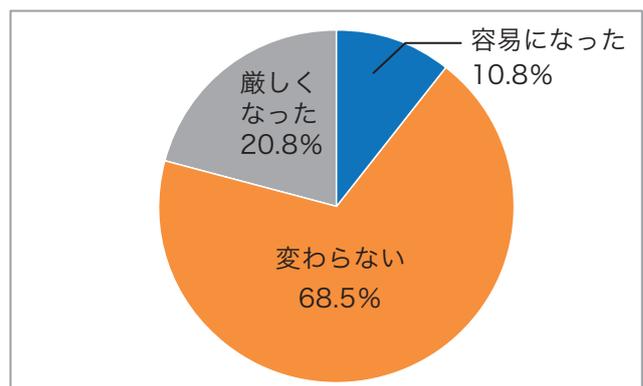


図4 前年同期(21年4-6月)比資金繰り:DI値△10.0



## (2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

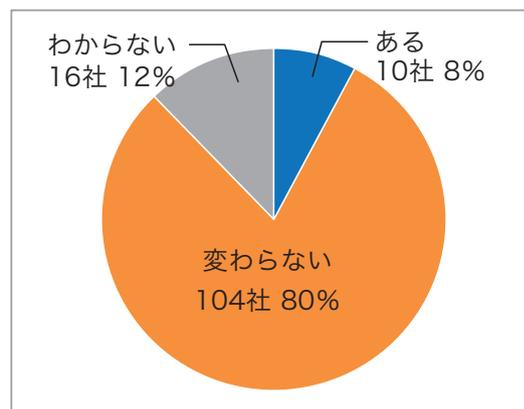
2022年4～6月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が10社・8%(前回4社・3%)であり、「変わらない」が104社・80%(前回100社・81%)であった(図5参照)。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢が6社(前回調査2社)、私募債の勧誘3社(前回2社)、出資金要請1社(前回なし)、追加担保要請1社(前回なし)、新たな貸し渋り1社(前回なし)であった(表2参照)

表1 金融機関の姿勢変化の内容(複数回答可)

貸付攻勢	6社	追加担保要請	1社
私募債の勧誘	3社	新たな貸し渋り	1社
出資金要請	1社		

図5 金融機関の姿勢変化

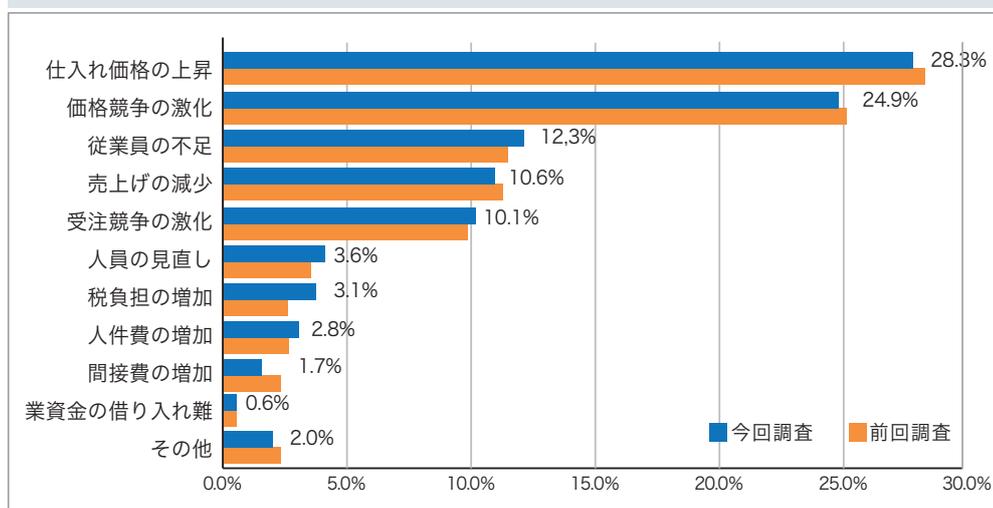


## (3) 経営課題と取り組み等

### ① 経営課題

2022年4～6月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇(101社・28.3%)、価格競争の激化(89社・24.9%)、従業員の不足(44社・12.3%)が上位であった(図6参照)。

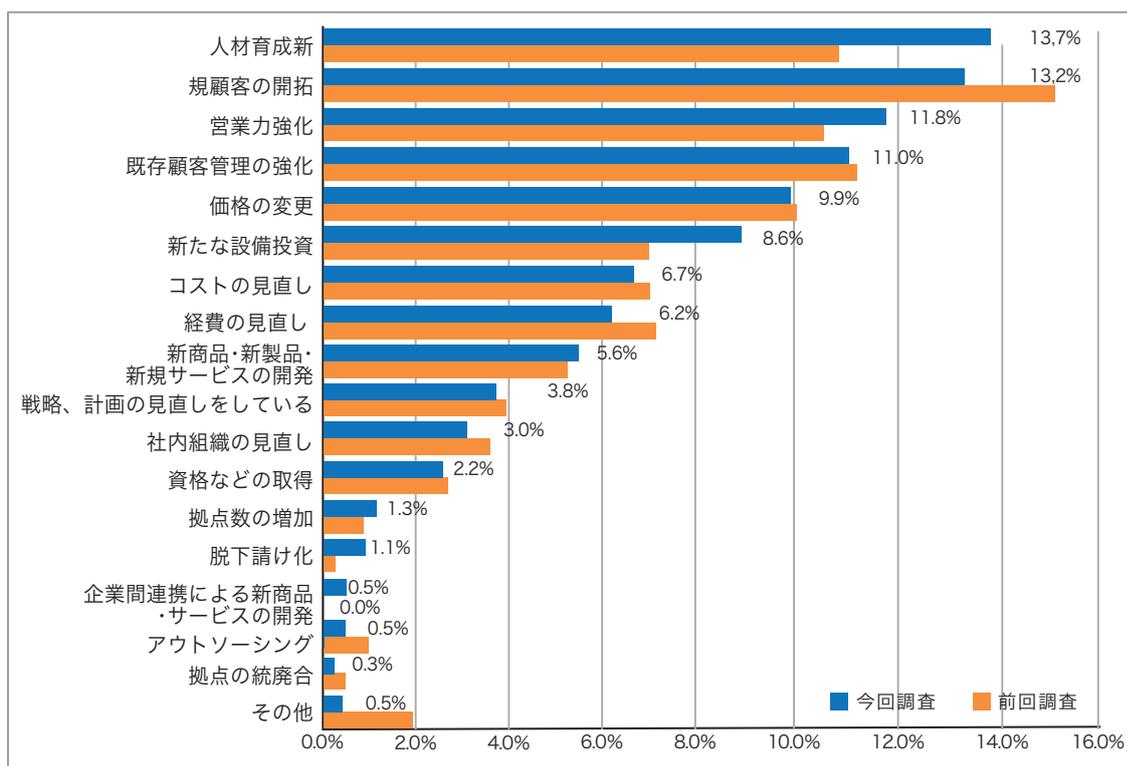
図6 経営上の課題(上位3つまでの複数回答)



### ② 現在の取り組み

2021年4～6月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、人材育成(51社・13.7%)、新規顧客の開拓(49社・13.2%)、営業力強化(44社・11.8%)、であった(図7参照)。

図7 現在取り組んでいること(上位3つまでの複数回答)



### ③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。※抜粋

- ・トラックドライバーが慢性的に人員不足
- ・外国人バイヤーが以前のように入国出来るといいと思う。ロシア問題とコロナ問題が落ち着いてほしい。
- ・在庫台数がとにかく減っている状態です

#### ■事務局より

次回2022年7～9月期の調査につきましては、2022年9月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第8回景況調査報告2022年4月～6月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20220720-keikyoutyousa8.pdf>

## 各ブロック会議の開催結果

# 04

### 九州ブロック会議 ー資源価格の情報共有ー

7月2日に福岡県のTKP小倉駅前カンファレンスセンターにてWEBを併用した形での開催となりました。九州の各支部から活動報告などあったなかで、特に資源価格について綿密な情報共有が行われました。また、他ブロックとの情報共有や連携強化のため今後交流会などを企画するようです。

会議後半には、ユーザーから依頼のあった中古パーツなどの在庫検索や注文を全てAI化をすることを目指した取り組みの紹介があり、こちらが近く実用化がされるとのことで参加者全員の興味を惹いていました。



### 近畿ブロック会議 ー事業内容の見直しをー

7月7日、大阪府のエル大阪にて開催されました。近畿ブロックは非常に熾烈な価格競争が繰り広げられており、コロナ禍前の営業方法等では通用しなくなってきたため、事業内容の拡大や営業方法の工夫など包み隠さず共有し、活発な情報交換が行われました。今の状況に嘆くことなく、自動車を取り巻く様々な変化を見極めながら、出来ることを全て行うべきであるという言葉が強く印象に残りました。また、使用済自動車由来のエアバッグの袋やプラスチックなどのリサイクル・リユースについても情報交換や議論が行われ、参加者全員が今後の動きに大きな期待を持っていると感じられました。



### 東北ブロック会議 ー各支部の組織力強化ー

7月12日に秋田県の秋田キャッスルホテルに東北の各支部長が集まり開催されました。在庫台数の減少や価格競争の激化の状況が続く中で、東北内での情報共有やコミュニケーションを強固にしていく必要があることを皮切りに、違法ヤード問題や今年の市況の予測など内容が多岐に渡った会議となりましたが、そのなかで会員増強の方法について議論が集中しました。各支部（都道府県）の会員組織率を整理した資料を基に、非会員の事業者にどのようにアプローチをしていくか、機構の考えや活動を以下に分かりやすく説明して理解してもらおうか、結果としていかに会員になろうかと思っただけかなど、多くの意見やアイデアが挙げられ、今年度の重要事項として継続的に議論を行う形となりました。

### 中国・四国ブロック会議 ー会員拡大に焦点ー

7月25日に岡山県の岡山サムライスクエアにて開催され、今回は機構会員拡大のためどのような取り組みをしていくべきかが大きなテーマとなり、各支部長から意見・アイデアが飛び交う会議となりました。支部のみで会員拡大の活動を行うことには一部限界があるため、機構本部も協力して会員への加入を促すことで会員数を増やしていけないかなど、機構内で連携を取りながら、今までと異なる切り口で検討を進めて会員を増やし、組織全体の増強に繋げていくことが重要であるとして閉会となりました。

# 2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 6月出荷状況と今期累計

# 05

## 【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 6月出荷状況と今期累計】

上段 6月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204
34	41	52	0	1	45	0	3
62	69	219	3	1	164	1	10

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
4	4	0	2	2	0	4	158
8	10	0	3	3	1	23	515

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

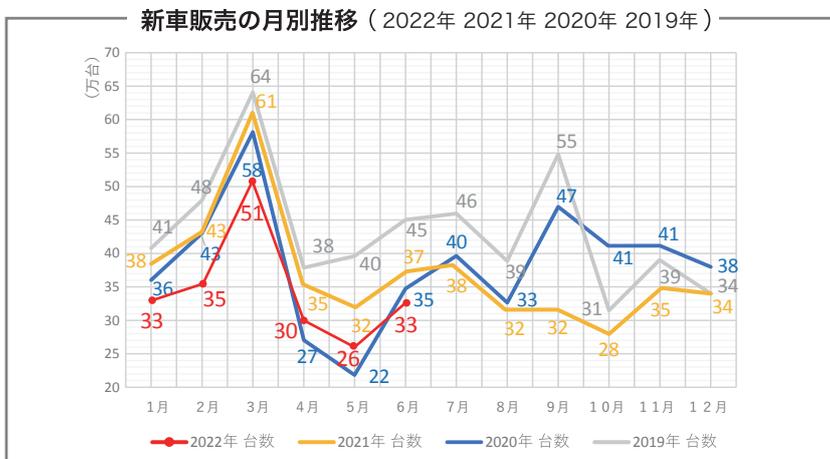
□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

# 6月新車販売・使用済自動車発生台数

～6月の使用済自動車発生台数 前年同月比10%減～

# 06

## ■2022年6月度 新車販売台数 327,896台 (前年同月比89.7%)



過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比(%)
2022年 (6月まで)	2,086,178	84.6
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

## ■2022年6月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

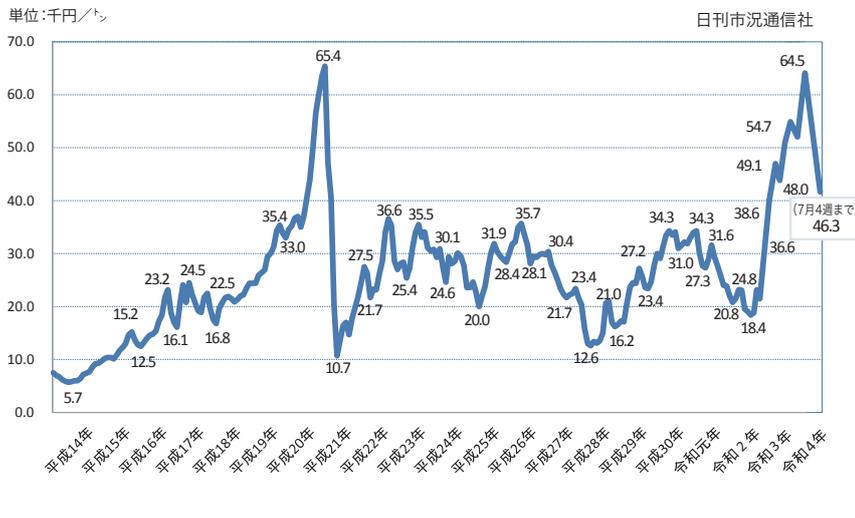


引取件数	
258,834件	(前年同月比 89.7%)
フロン回収工程	
230,812件	(前年同月比 89.5%)
解体工程	
272,216件	(前年同月比 90.1%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 7月第5週(26日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



7月26日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	41,500～44,500	続落
	南関東	41,500～44,500	続落
	浜値	39,000～41,000	続落
名古屋		44,000～46,000	続落
関西	大阪	45,000～46,000	続落
	姫路	44,500～45,000	続落

## 国内鉄スクラップ相場 下げ余地残したまま推移

7月23日前後の週末に1トンあたり2,000～3,000円ほど続落した国内鉄スクラップ価格は、週が明けてからも先安感が続いている。市中ヤードの入荷低迷や在庫減を指摘する声があるものの、東京製鉄をはじめ国内メーカーの購入価格が浜値や輸出価格に対して高値にあり、下げ余地を残している。全国的にメーカー入荷は需要量を上回っており、各地で荷受制限など在庫の増加を抑制する動きが続いている。

関東地区では、電炉買値の実勢価格と湾岸浜値との両指標の価格差が2,500～4,000円に広がっている。関西などもメーカー買値が浜値を大きく上回っている状態だ。

鋼材生産が好調な東京製鉄は、スクラップの確保を優先する構えとなっている。海外市況の下落や国内の荷余り感により断続的に値下げを進めてきたが、価格対応には慎重さを残している。今後も「東鉄高・海外安」の状態が続くとみられ、海外相場や輸出価格の動向が国内相場を左右することになりそうだ。

なお、日本玉輸出市場は今週に入り目立った動きは出ていない。海外メーカーの引き合いは弱いままだが、日本側で安値成約に積極的な姿勢も少ない。

## 【関東地区】 入荷好調で電炉在庫は高水準に

関東地区では、船送り量の減少により鉄スクラップ需給が緩み、荷余り状態が続いている。関東浜値が先行下落する中で、域内で高値圏にある電炉メーカー各社の入荷は好調だ。メーカー在庫は高い水準が続き、荷止や入荷制限などの対応が継続。7月26日から一部電炉で値下げ改定が出ている。H2炉前実勢価格は41,500～44,000円中心、高値44,500円見当。H2浜値は39,000～40,000円中心、高値41,000円見当。

## 【東海地区】 販路狭くなお先安懸念広がり弱含み気配

名古屋地区の鉄スクラップ市場は弱含み気配が続いている。地区電炉メーカーの中には原料入荷が必要以上に増えることを避けるため、厳格な枠制限を設けている所も多い。7月下旬に入り地場メーカーへの納入枠を完納した業者筋では、東京製鉄田原工場へ出荷を振り分ける動きも見られ、田原工場は海上玉も含め高い入荷を維持している。H2炉前実勢価格は44,000～45,500円中心、高値46,000円見当。なお底値の見えない状況だ。

## 【関西地区】 7月最終週から需要一段と冷え込み続落懸念

関西地区の鉄スクラップ市況は続落している。7月最終週からは複数で夏季炉休入りとなり、他も入荷抑制に対する意向が強い。このため納入先が限られており、出荷先が非常に少ない状況が解消しないため、下落圧力をより高めたまま月末を迎えている。今後についても、需要減退を背景に一段安の展開を予測する声が多い。H2炉前実勢価格は、大阪地区が45,000～46,000円中心。姫路地区が44,500～45,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月26日午後時点のもの)

## — 8月の主な行事予定 —

August

### ■ 8月9日(火)

- ・第5回 広報部会 (WEB)
- ・第3回 常任役員会 (WEB)

※ 8月11日(木)～8月16日(火)まで、事務局はお休みとなります。

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### ～自動車再資源化協力機構より～ 破砕業者でエアバッグ類未処理による作動事故が発生しました!!

今般、破砕業者の手選別工程にて未処理エアバッグ類が作動するという事故が発生しました。(過去にも同様の事故発生あり)

解体業者の皆様方におかれましては、今一度エアバッグ類の処理が確実に実施されているか再確認頂き、次工程への搬出時に未処理エアバッグ類がないことを徹底頂きますようお願いいたします。

■ 本件の詳細については、以下のリンク先をご参照ください。(自再協HP内) ▼

[https://jarp.org/pdfs/information/20220715\\_ab\\_information.pdf](https://jarp.org/pdfs/information/20220715_ab_information.pdf)

## 編集後記

今号からニュースレターは広報部会の内部組織を再編し、部会メンバーそれぞれが新しい役割分担のもと編集作業を行うこととなりました。メンバーの顔ぶれは変わっていませんが、委員全てが新たな気持ちでニュースレターの制作に取り組むことを誓いました。

また、前任の永田部会長においては、この業界に置いておくにはもったいないくらいの稀なる文才を発揮されながら毎月編集後記を書かれており、この編集後記を楽しみにされていた読者の皆様も多くいられたと思います。そのような方々の期待にお応えすることはとても大きなプレッシャーではありますが、今号より新任部会長田村が頑張って執筆する所存です。

そして、この場をお借りしまして広報部会の面々を紹介させていただきます。まず、「カーグリーンコマゼン 木村副部会長」、「大八商会 小宮山委員」、「オートパーツ伊地知 伊地知委員」、「永田プロダクツ 永田委員」、それと部会長の「タムラ部品商会 田村」です。

最後になりますが、全員一丸となり今まで以上のニュースレターをより多くの方々にお届けする所存でございますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

(広報部会長 田村 幸男)